

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 22 日現在

機関番号：34305

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23531270

研究課題名(和文) 保育士・教員養成課程における幼保小連携を踏まえた表現教育カリキュラムの開発

研究課題名(英文) Development of a curriculum on expressive education in a training course for nursery and school teachers from the perspective of the transition from nurseries/kindergartens to elementary schools.

研究代表者

山野 てるひ(YAMANO, Teruhi)

京都女子大学・発達教育学部・教授

研究者番号：70168631

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は保育、教育において求められ指導者としての資質と能力を育成するカリキュラムを、小学校以降の教育活動への円滑な移行を踏まえた観点から新たに構築し、提案したものである。研究成果は関連学会での発表や保育者・教員を対象とする研修会を行ったほか、開発した教材とカリキュラムを一般図書として出版し社会的還元を図った。最終的には研究成果報告書を発行することによって研究の総括を関係機関や研究者に広く発信した。

研究成果の概要(英文)：In this study, we developed and proposed the use of a curriculum that nurtures the characteristics and abilities required of leaders of nursery schools and education, from the perspective of smooth educational transition after elementary school. The findings of the study were fed back to society through conference presentations, workshops for nursery and school teachers, and the publication of books on the developed materials and curriculum. Finally, a summary of the study was widely disseminated to related organizations and researchers by the publication of a research outcome report.

研究分野：美術科教育学

キーワード：表現教育 総合的芸術教育 幼保小連携 カリキュラム開発

### 1. 研究開始当初の背景

平成 20 年の学習指導要領の改訂は第三の教育改革の総仕上げと言われる。80 年代後半以降が国はバブル経済期を迎え、情報化、少子化など社会環境が激変し、子どもの五感や感性の育ちに対する警鐘が鳴らされて<sup>1)</sup>人間的感性の育成を教育の根本的な課題に据えることが要請<sup>2)</sup>されるようになった。その施策の一つとして、平成元年に幼稚園教育要領が、平成 2 年に保育指針が改定され、従来の保育内容で示されてきた領域「音楽リズム」・「音楽」や「絵画製作」・「造形」が、感性と表現に関する領域「表現」として大きく改められたことは周知のとおりである。しかし実施から四半世紀が経過した現在も、保育の現場ではなお旧来の「音楽リズム」や「絵画製作」の枠組みを脱しない技術的な指導が多く行われている実態がある。その大きな要因に保育士・教員養成課程をもつ養成校において、「表現」に関わる科目は、大半が「音楽表現」や「造形表現」、「身体表現」などの科目に分かれて従来のままに教授されている現状があった。それらに関連付けながら統合するのはもっぱら学生自身に委ねられているのである。そのため保育者養成において領域「表現」が目標とする保育内容を実践できる資質と能力を備えた保育者を養成する教育課程を再構築することは、重要な課題の一つとなっていた<sup>3)</sup>。

同時に、近年幼児教育と小学校教育との円滑な接続の方策が強く求められている<sup>4)</sup>ものの幼保小連携はその実践の多くが異年齢交流に留まっている段階であった。児童の発達特性として幼児期後期から小学校 4 年生前後を一つの画期として認め、生活科や総合的学習などを中心として、国語科、音楽科、図画工作科など感性と表現に直接関わる教科が積極的に関連を図りながら、保育内容との接続(指導の一貫性、連続性)

に配慮した指導計画を策定し指導方法を開発してゆく必要があると考えられた。

### 2. 研究の目的

上記の背景から保育、教育において求められる表現教育の指導者としての資質と能力を育成するカリキュラムを、小学校以降の教育活動への円滑な移行を踏まえた観点から新たに構築し、提案することを目的とする。

### 3. 研究の方法

これまでの保育者養成課程における表現活動の総合化を実現するための先行研究<sup>5)</sup>や実践の多くは、合科学習の発想に基づいた直列的合科の手法と並列的合科目の手法を用いたグループ表現活動として捉えることができる。しかし、そこで研究対象となるのは表現単位を統合するテーマの内容や設定方法であったり、配列や結合の方法に向けられていた。つまり、あくまで音楽表現、造形(美術)表現、身体表現、言語表現は一つのまとまりをもった単位として扱われ、それを同一テーマの下に合目的に統合する試みであるといえよう。また設定されるテーマも主として日常の「もの」や「こと」の模倣、再現におかれていた。

本研究は、そのような表現単位そのものを解体して各々の表現を支える要素に還元し、その要素間の共通性や関連性に着目し、学習者の知覚を通して要素間の類似性や呼応関係を体験することを第一義においた。さらに体験した知覚の複合を感覚として様々な原初的媒体によって表現することで自らの感覚を自覚し、その自覚の体験の蓄積によって学習者の感性を開いてゆくことをねらいとしている。特に人間の表現という営みにおいて最も基本的媒体である自身の身体感覚をひらく演習に着目し、開発を行っている。呼吸から身体の状態を自覚し調整することに方法の可能性を探った。

また学習方法としてグループ活動を中心とする応答型、協働型の体験学習を意図的に構成している点、加えて曖昧とされる感性の評価基準の策定の研究であることも特徴と言える。

具体的には本学の保育士・教員養成課程においてそれまで音楽教育と造形教育の教員がリレー式に行っていた「表現」の講義内容を統合して、学生自身の諸感覚を耕し表現活動の多様な構成要素を関連づけることのできる総合的な表現教育の題材の開発とカリキュラムの構造化に取り組んだ。そして「音楽的」、「造形的」な視点に留まらず、「身体的」、「言語的」視点から共通性と固有性の原理を吟味して取り入れ、研究範囲を拡大した。

さらにその養成課程のカリキュラムから実際に保育、教育の現場において「表現教育」をどのように見通し、展開できるのか、研究連携する幼稚園の保育によって検証（計画、実践、評価）した。

#### 4. 研究成果

研究成果として大きく下記の3点が挙げられる。

(1) 身体感覚を耕す呼吸法や音声、言語、全身運動と空間性を感得する方法とそれによって耕された感覚を相互に結び付けて表現する方法を研究し、それぞれを段階的、関連的に12項目のカリキュラムにまとめ

1) 身体感覚をひらくエクササイズ

2) 五感をむすぶエクササイズ

として提案した。

(2) 公立幼稚園と研究連携し、領域「表現」を核とした保育実践力を向上させる 保育指導案集の作成と、その有効性の検証(計画・実践・特に評価の問題)を行った。

(3) 表現教育の幼保小の円滑な接続と、一貫性、連続性を保障する総合的な表現プログラムの開発の一環として子どもの五感を結びつける絵本教材リストを作成した。

また以上の研究成果を社会的に還元するため、図書と成果報告書に分けて発表した。

最初のものは感性を育む表現教育のテキストであり、2013年5月に『感性をひらいて保育力アップ「表現エクササイズ&なるほど基礎知識」の著書名で一般書として明治図書から刊行した。このテキストでは開発した教材を保育を学ぶ学生にもわかりやすく提示し、研究連携した幼稚園での感性を育む表現教育の実際の計画・実践・評価の在り方に重点をおいて示した。

それに対して研究成果報告書は大きく2部構成をとり、第1部で一般テキストとしては掲載できなかった教材の詳細を示し、第2部では1部から展開できる保育の可能性を検証した事例を報告した。

< 註 >

- 1) 寺内定夫、感性があぶない、毎日新聞社、1989
- 2) 日本教育方法学会編、新教育課程と人間的感性の育成、明治 図書、1989
- 3) 今川恭子他、子どもの表現を見る、育てる - 音楽と造形の視点から -、文化書房博文社、2005
- 4) 中央教育審議会答申、幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について、2008
- 5) 表現活動の総合化の先駆的研究としては岡崎女子短期大学における守山均らの「保育者養成カリキュラムにおける表現活動の総合化」(その1) 岡崎女子短期大学紀要第22号1988から(その6) 岡崎女子短期大学紀要第29号1995がある。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

ガハブカ奈美、ヴォイス・トレーニングの授業における自己表現の展開 - 呼吸法を用いた活動の有効性 -、京都女子大学発達教育

岡林典子・ガハプカ奈美・山野てるひ、感性を育む表現教育のプログラム開発 - 「楽曲を描く」課題を中心に -、京都女子大学発達教育学部紀要第8号、2012、pp.139-148

ガハプカ奈美、保育者養成課程における歌唱指導について( ) - 発声指導の在り方 - 京都女子大学発達教育学部紀要7号 2011、pp.97-104

〔学会発表〕(計7件)

教員養成課程における音楽と造形の総合的表現教育の試み(1)、日本保育学会第68回大会、椋山女学園大学、2015.5.9、平井恭子・山野てるひ

教員養成課程における音楽と造形の総合的表現教育の試み(2)、日本保育学会第68回大会、椋山女学園大学、2015.5.9、山野てるひ・平井恭子・矢野真

呼吸法を用いた歌唱指導 - 想像することの有効性 -、第9回感性をつないでひらく芸術教育を考える会、兵庫教育大学大学院神戸ハーバーランドキャンパス、2015.3.7、ガハプカ奈美

保育士・教員養成課程における幼小連携についての課題 表現教育に関わる「領域」と「教科」をつなぐ教材の開発、日本保育学会第67回大会、大阪総合保育大学・大阪城南女子大学、2014.5.18、岡林典子・山野てるひ・ガハプカ奈美・矢野真

表現教育のプログラム開発：歌唱指導につながる呼吸を知る - 春の小川 を題材に -、第8回感性をつないでひらく芸術教育を考える会、兵庫教育大学大学院神戸ハーバーランドキャンパス、2014.3.2、ガハプカ奈美・山野てるひ・岡林典子

五感をつなぐ絵本教材について、第7回感性をつないでひらく芸術教育を考える会、兵庫教育大学、2013.3.8、山野てるひ・岡林典子・ガハプカ奈美

感性を育む「表現教育」の新たな教材開発の試み - 感覚に総合的に働きかける絵本を題材として -、第27回実践美術教育学会、尼崎市立労働福祉会館、2013.2.12、山野てるひ・岡林典子・ガハプカ奈美

保育者養成課程における感性教育のプログラム開発 - P.D.Q Bach の楽曲を描く -、全国保育士養成協議会第50回研究大会、富山県民会館、2011.9.9、山野てるひ・岡林典子・ガハプカ奈美

〔図書〕(計2件)

山野てるひ・岡林典子・ガハプカ奈美・鷹木朗、あいり出版、平成23-26年度学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)研究成果報告書 課題番号 23531270 保育士・教員養成課程における幼保小連携を踏まえた表現教育カリキュラムの構築、2015、162

山野てるひ・岡林典子・鷹木朗編著、明治図書、「表現」エクササイズ&なるほど基礎知識、2013、144

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

山野 てるひ (YAMANO, Teruhi)  
京都女子大学・発達教育学部教育学科・教授  
研究者番号：70168631

### (2)研究分担者

岡林 典子 (OKABAYASHI, Noriko)  
京都女子大学・発達教育学部児童学科・教授  
研究者番号：30331672

ガハプカ 奈美 (GAHAPUKA, Nami)  
京都女子大学・発達教育学部教育学科・准教授  
研究者番号：80413334

鷹木 朗 (TAKAGI, Akira)  
京都造形芸術大学・芸術学部・准教授  
研究者番号：90617797

### (3)研究協力園

宝塚市立西山幼稚園